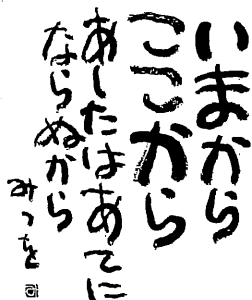


さくら第500号

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7: Tel 51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

令和 3年 8月



『継続は力なり』

『継続は力なり』という言葉は多くの人の座右の銘となり、努力することの大切さ、あきらめずに最後までやりぬくための励ましの言葉となっています。それは、いったい、いつごろから、誰の言葉として受け継がれてきたのだろうか気になっていました。

広島県で1895年(明治28年)に生まれた住岡夜晃(すみおか やこう・本名は郁三)さんは小学校の先生を9年間勤めたあと、宗教家となり多くの人々に人生のあるべき姿、生き方などを教えることにまい進され、54歳の生涯をささげてこられました。

住岡さんの著書、『讚嘆の詩(さんだんのうた)』上巻第一章「若人よ一道にあれ」の(二)の中に載っています。

青年よ強くなれ
牛のごとく、象のごとく、強くなれ
真に強いとは、一道を生きぬくことである
性格の弱さ悲しむなかれ
性格の強さ必ずしも誇るに足らず
「念願は人格を決定す 継続は力なり」
真の強さは正しい念願を貫くにある
怒って腕力をふるうがごときは弱者の至れるものである
悪友の誘惑によって墮落するがごときは弱者の標本である
青年よ強くなれ 大きくなれ

飽きずに継続できるということが一つの才能であり、大事なことです。飽きないから、続けることが辛いと思わず、やりつづけることになりま

す。うまくなりたい気持ちがさらなる向上心に連なります。この次はもっとうまくなろう、できるまで頑張ろうという気持ちが起きます。

作家でもある明治大学教授の斎藤孝氏は著書『日本人の言葉』のなかで「そう考えると、継続というのは、同じことを繰り返す反復というよりは、今までやってきたことの何かを変えようとして微調整をしていくことだとも言える。そうするなかで小さいいい変化があることを楽しみにする」と述べ、常に気持ちを新たにしていって継続していくことで、いつの間にか自信につながる経験の積み重ねができていく。

何かを経験させるには、地道な意思より、その新鮮な気持ちを持ち続けることが大事だと言います。『よりよい方へ変化し続けることが継続といえよう』とあります。

また、アメリカの大リーグで活躍したイチロー選手の言葉である「小さなことを重ねることが、とんでもないところに行くただ一つの道」であることも記しています。

『継続は力なり』という書物があります。副題に、人生を本音で生きた女校長の記録とあり著者は草柳大蔵。

埼玉県行田市にある東小学校の校庭に石碑がありその碑文には「継続は力なり」と刻まれており、ホームページで確認できました。

東小学校が1978年に開校百周年の記念碑を建てるさい、碑文の辞句を市民に募集したところ「継続は力なり」がほとんどだったといえます。卒業生にこの言葉を色紙に書いて贈ったのが須郷園子という校長であり、それまでの授業などでも話し続けていたとあります。

多くの人に座右の銘として生き続ける言葉ですが、決めた目標を初めから長くつづけようとするれば息苦しくなります。

初めにある行いがあり、それを持続し、その持続によってある効果を感じた時、『継続は力なり』という言葉でまとめるようになりたいと思います。あきらめず、根気よく、そして楽しみをみつけながら歩み続けたい。昨日よりは今日、そして明日へと進歩するように。